



いま、あたらしいことを。いつか、あたりまえになることへ。

---

## 2025年3月期 第3四半期決算補足説明資料

---

2025年2月7日

**SWCC株式会社**

1. 2024年度第3四半期決算概要
2. 中期経営計画の数値目標の見直し

# 1. 2024年度第3四半期決算概要

---

# 2024年度 第3四半期決算 概況

## 経営環境

- 脱炭素社会や半導体・デジタル関連需要に向けた投資拡大。
- 工事案件の年間平準化の動きは継続も、3Qでは工事案件が集中。
- 自動車関連市場においては、一部国内自動車メーカーの生産・出荷停止、中国での販売不振。
- 電線業界においては、電線全体の需要は微減。
- 銅の国内建値平均価格は、前年同期より上昇。

## 売上高

エネルギー・インフラ事業の業績好調により、**前年同期比増収**。

【主な事業分野別状況】

**エネルギー・インフラ**・・・建設関連向けおよび電力インフラ向け**需要は好調**。

**自動車**・・・・・・・・・・xEV向け高機能製品の**需要は調整局面**。

**通信ケーブル**・・・・・・・・建設向けおよびADAS向け高速LANの**需要は堅調に推移**。

## 営業利益

建設関連向けおよび電力インフラ向け需要が**好調に推移し、前年同期比大幅に増益**。

# 2024年度 第3四半期連結業績 P/L

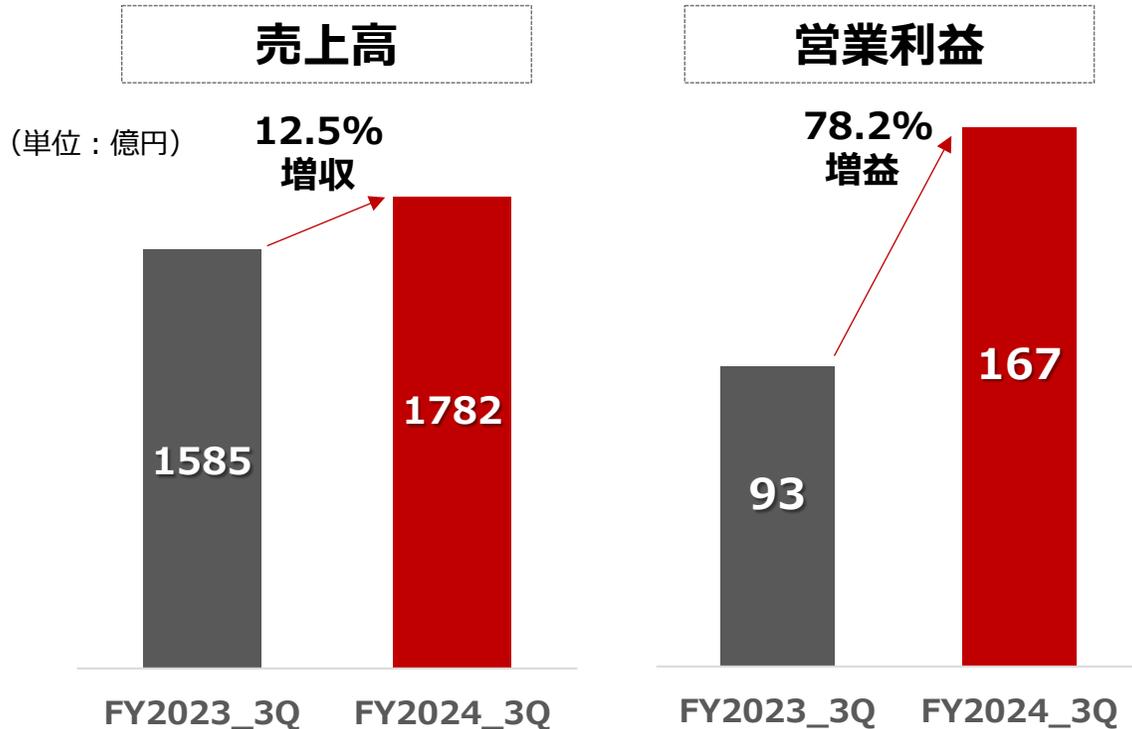
エネルギー・インフラ事業の業績が好調に推移し、今後も好調を維持すると見込むが、  
持分法による投資損失および貸倒引当金繰入額を最大限計上し、**当期業績予想については経常利益を下方修正。**

(単位：億円)	2023年度 3Q実績	2024年度 3Q実績 (前年同期比%)	2024年度 通期計画 (修正前)	2024年度 通期計画 (修正後)	進捗率 %
売上高	1,585	1,782 (+12.5%)	2,340	2,340	76.2%
営業利益	93	過去最高 167 (+78.2%)	205	過去 最高益 を予定 205	81.3%
営業利益率 %	5.9%	9.3% (+3.4pt)	8.8%	8.8%	—
経常利益	92	71 (▲22.7%)	170	105	67.5%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	63	過去最高 77 (+22.5%)	100	過去 最高益 を予定 100	77.5%

# 2024年度 第3四半期決算のポイント

## 3Q前年同期比

エネルギー・インフラ事業の業績好調により、**大幅増益**。



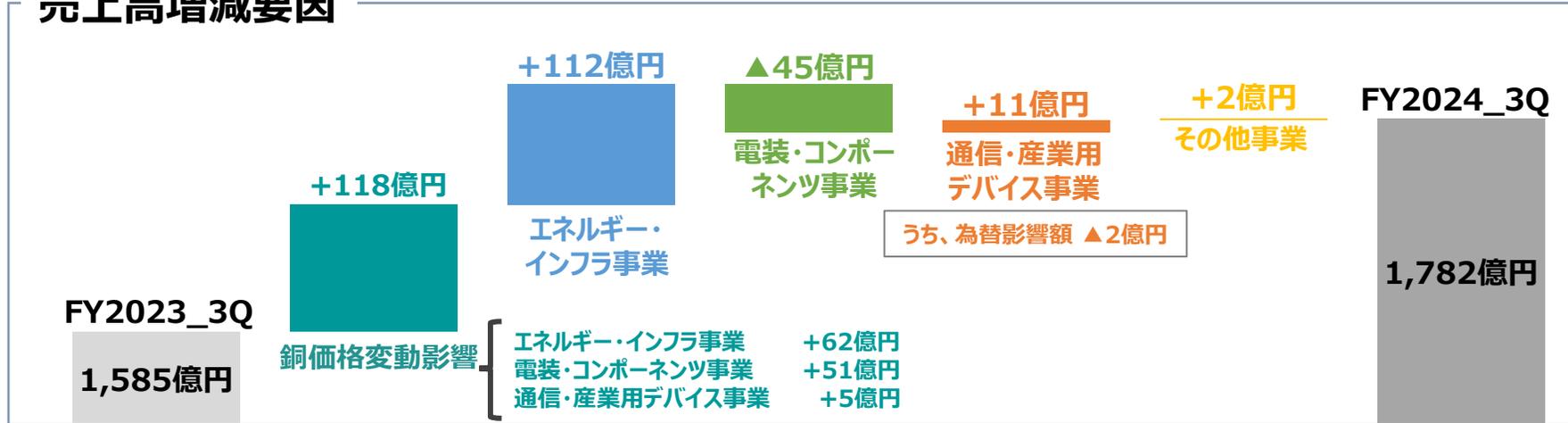
## 3Q進捗率

売上高・営業利益ともに例年より高い進捗。

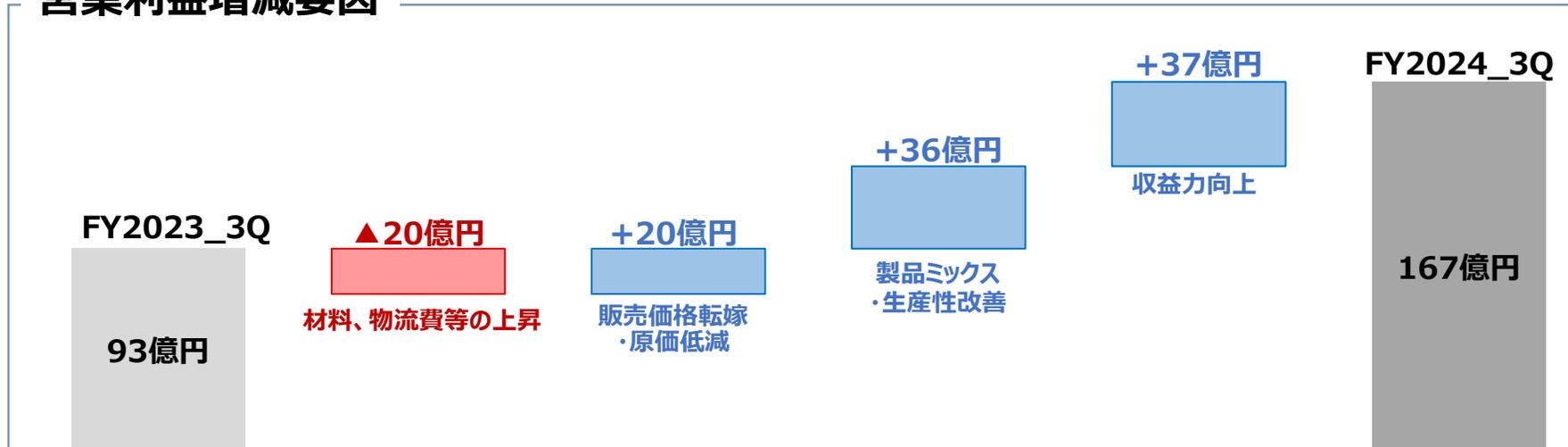
(単位：億円)	通期計画	FY19-23 平均進捗率	3Q進捗率
売上高	2,340	74.1%	76.2%
営業利益	205	73.6%	81.3%

# 2024年度 第3四半期 増減要因 (前年同期比)

## 売上高増減要因



## 営業利益増減要因



### 【増減要因】

1. 売上高  
期初想定の国内建設関連向け需要反動減もなく、エネルギー・インフラ事業好調により、**前年同期比増収**。

2. 営業利益  
原材料価格、物流費の上昇については、販売価格転嫁と原価低減でカバー。各種収益改善施策の実行と、好調な電力インフラ向け需要増により**前年同期比大幅増益**。

### 【今後の取り組み】

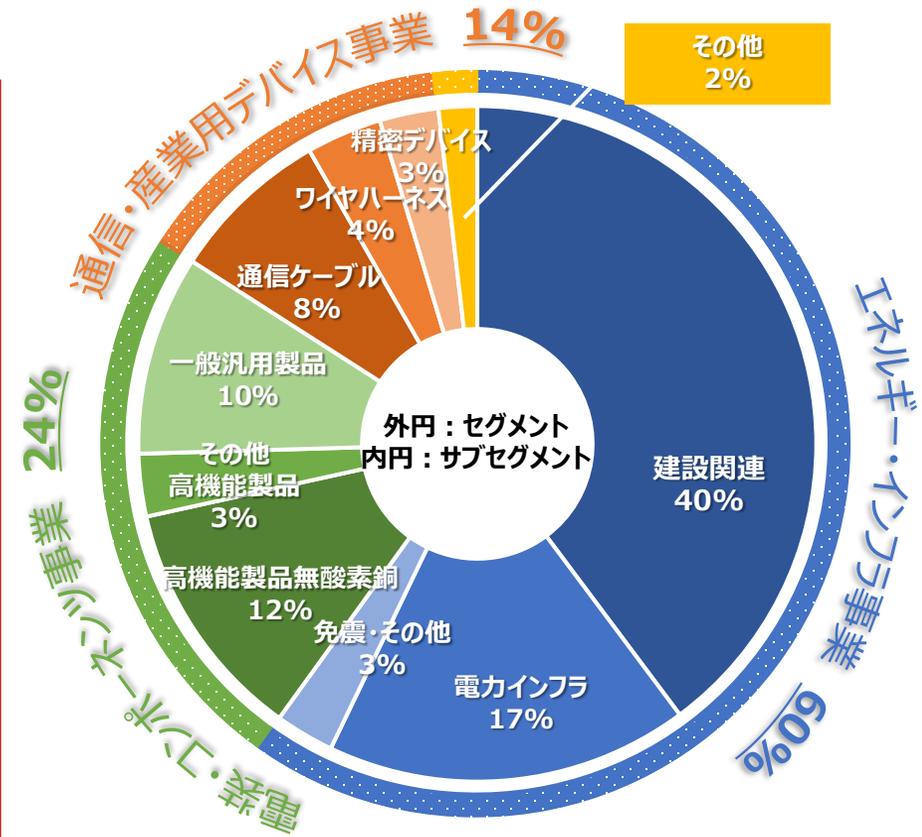
旺盛な需要に伴う出荷増に備えて適正な在庫を確保。

# 2024年度 第3四半期 セグメント業績

**エネルギー・インフラ事業は、**堅調な建設向け需要と、電力インフラ事業における旺盛な工事および電力機器への需要増により**過去最高益を更新**。**通信・産業用デバイス事業は、**家電向けワイヤハーネス需要が低迷も、堅調な通信ケーブル需要と精密デバイスの収益改善効果により**前年同期比大幅に利益率が改善**。

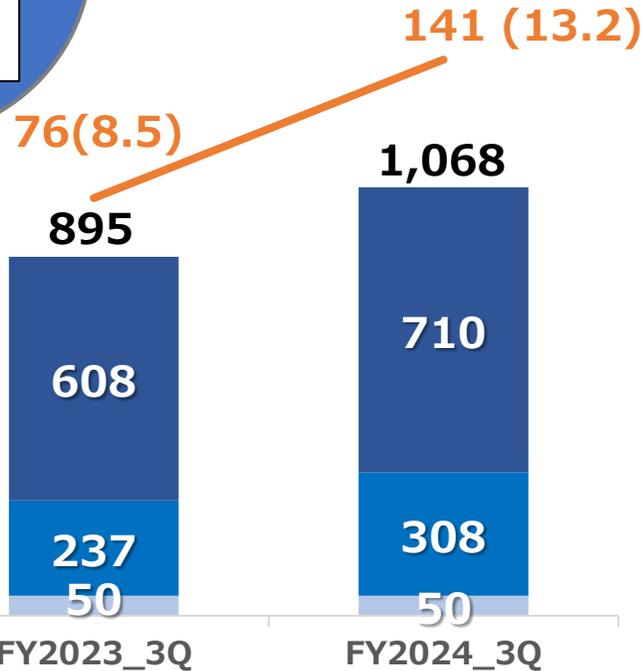
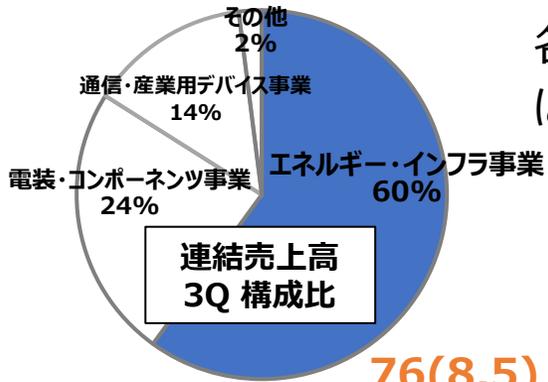
	2023年度3Q 実績		2024年度3Q 実績	
	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益 (利益率%)
(単位：億円)				
<b>【好調】</b> エネルギー・インフラ事業	895	76 (8.5%)	1,068	141 (13.2%)
<b>【前年並】</b> 電装・コンポーネンツ事業	424	14 (3.3%)	431	14 (3.2%)
<b>【堅調】</b> 通信・産業用デバイス事業	235	10 (4.1%)	251	20 (8.1%)
● その他	31	1 (1.6%)	33	2 (6.1%)
合計	1,585	93 (5.9%)	1,782	167 (9.3%)

2024年度3Q実績  
セグメント売上高比率



# 2024年度 第3四半期 セグメント業績 エネルギー・インフラ事業

各種収益改善施策の効果に加え、電力インフラ事業での旺盛な工事および電力機器への需要増により、**前年同期比増収（19.4%増）・大幅増益（85.3%増）**。



(単位：億円、%)

- 建設関連
- 電力インフラ
- 免震・その他
- 営業利益
- ( ) 営業利益率

	FY2023_3Q	FY2024_3Q
営業利益進捗率	71.0%	81.8%

## 3Q業績（好調）の要因

“好調”

建設

- ・原材料の価格高騰等を織り込んだ販売価格見直し
- ・DX推進や各種生産性向上による収益改善

“好調”

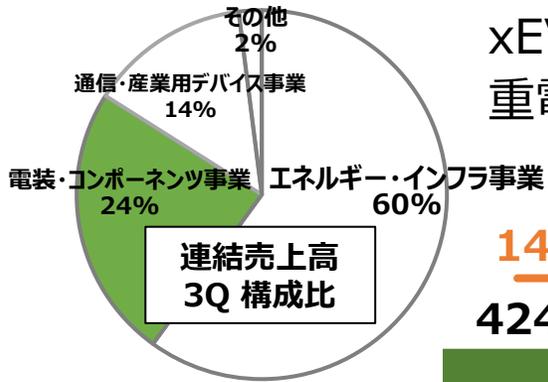
電力

- ・電力会社のレベニューキャップ対応案件の増加
- ・工事平準化に伴う収益改善は継続も3Qは案件増加
- ・製品優位性など付加価値を活かした価格改善効果
- ・増産投資効果による電力機器の出荷増加

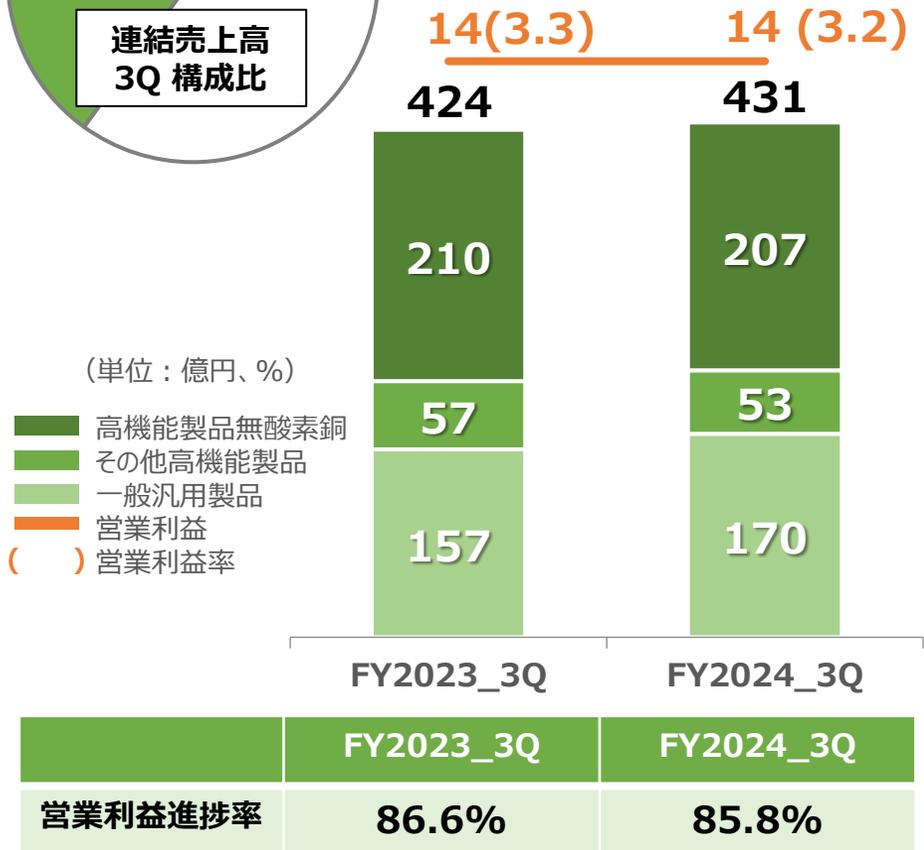
今後の戦略

旺盛な電力インフラ需要を取り込むべく、施工人員、製造、保守含め、中計人員計画より更に増員を予定

# 2024年度 第3四半期 セグメント業績 電装・コンポーネンツ事業



xEV向けは、一部国内自動車メーカーの生産・出荷停止と中国での販売不振の影響を受け低調。重電向け一般汎用巻線は堅調に推移するも、**前年同期比増収（1.5%増）・減益（2.7%減）**。



## 3Q業績（前年並）の要因



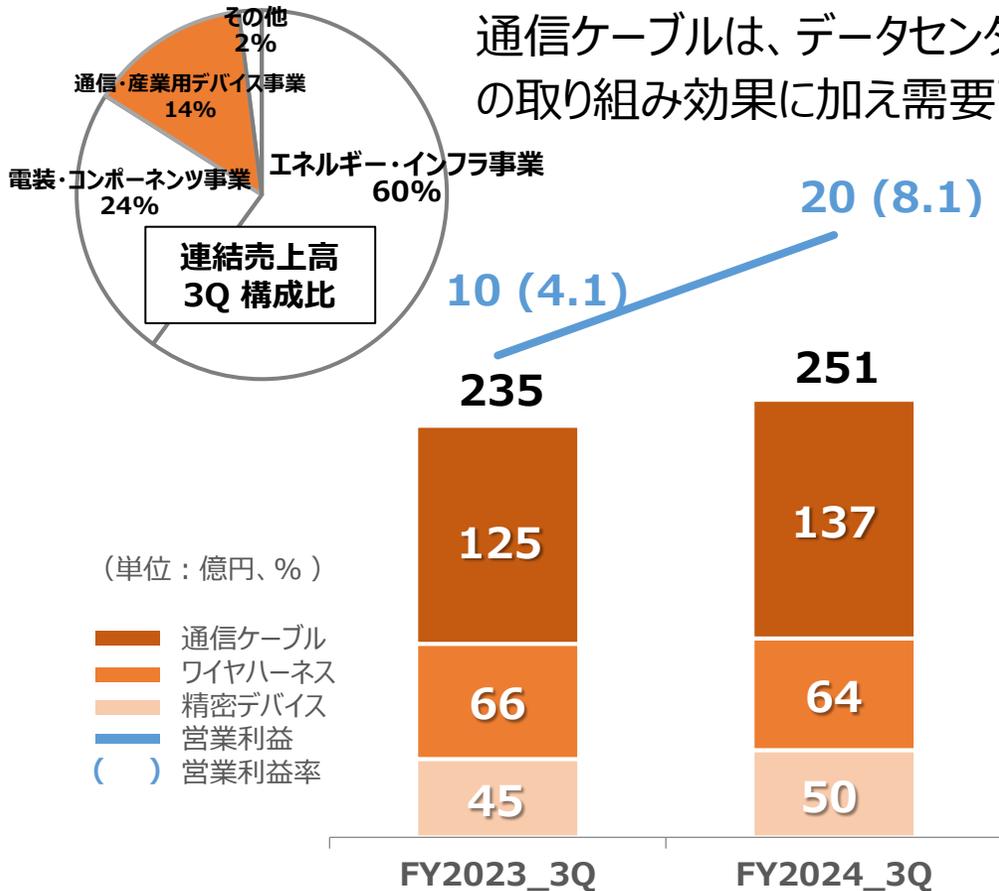
- 一部国内自動車メーカーの生産・出荷停止による調整局面
- 欧州ハイブリッド向けは順調も、調整局面
- 一部国内自動車メーカーの生産・出荷停止と中国での販売不振の影響を受ける

**今後の戦略** 川下戦略を加速し、高付加価値製品の販売を拡充（半導体、ロボット向け等）

※MiDIP®は左記高機能製品無酸素銅に含まれる戦略製品。また、平角巻線・ヒータ線は、左記その他高機能製品に含まれる戦略製品。

# 2024年度 第3四半期 セグメント業績 通信・産業用デバイス事業

通信ケーブルは、データセンターを含む建設関連向けとADAS向け需要が堅調に推移。ローラも、収益改善の取り組み効果に加え需要改善により、**前年同期比増収（6.7%増）・大幅増益（109.7%増）**。



	FY2023_3Q	FY2024_3Q
営業利益進捗率	70.6%	73.0%

## 3Q業績（堅調）の要因

通信

・データセンター向け堅調。首都圏再開発、大阪万博、再エネ案件も需要継続。好調な市況を背景に主力製品および新製品の売上拡大が寄与

ワイヤハーネス

・日系家電メーカーの国内および中国での販売不振の影響を受ける

ローラ

・昨年からの収益改善の取り組み効果に加え、個人、オフィス、産業向けの需要回復

今後の戦略

**FLANTEC®ラインナップ増強による拡販（ADAS向け高速通信ケーブル等）とe-Ribbon®の拡販**

※ローラは左記精密デバイスに含まれる製品。

# 2024年度 第3四半期 連結業績 B/S (前期末比較)

(単位：億円)	2023年度末	2024年度3Q	増減
<b>資産合計</b>	<b>1,616</b>	<b>1,592</b>	<b>▲24</b>
売上債権	515	551	36
棚卸資産	290	318	28
固定資産	672	593	▲78
<b>負債合計</b>	<b>845</b>	<b>774</b>	<b>▲70</b>
仕入債務	260	256	▲3
有利子負債	303	293	▲10
<b>純資産合計</b>	<b>771</b>	<b>818</b>	<b>47</b>
自己資本	759	802	43
自己資本比率(%)	47.0	50.4	3.4
<b>DEレシオ(%)</b>	<b>40</b>	<b>37</b>	<b>▲3</b>

## 【棚卸資産】

業績好調な上、銅価格上昇ならびに4Q以降の出荷を見越した適正な在庫確保のため増加。

## 【固定資産】

持分法適用会社（富通昭和線纜（杭州）有限公司、富通昭和線纜（天津）有限公司）の出資の評価損の影響および、土地ならびに政策保有株式の売却により減少。

## 【有利子負債】

業績好調を背景とする運転資金需要はあるものの、土地ならびに政策保有株式の売却により減少。

## 【自己資本比率】

業績好調により自己資本は積みあがり、前期末対比3.4ポイント増。

## 【DEレシオ】

自己資本は積みあがるも、有利子負債も減少したため、前期末対比3ポイント減。

## <現状の課題認識と今後の対応策>

CCCの改善など、各種BS改善施策は継続も、原材料価格高騰および4Q以降の出荷に備えた適正な在庫確保のため棚卸資産が増加。

引き続き、適正な水準での在庫の確保と、債権回収期間の短縮を進めることで、改善を進める。

## 2. 中期経営計画の数値目標の見直し

---

# 中期経営計画の最終年度数値目標修正に関するお知らせ

## ■ 修正の理由

当社グループでは、2024年5月に、2021年11月公表の中期経営計画に足元の事業環境変化を織り込んだ「Change & Growth SWCC 2026 ローリングプラン2024」を策定しました。

当事業年度をスタートとし、2026年度を最終年度とするローリングプランでは、3つの基盤事業の強化に伴うオーガニック成長を見込み営業利益を上方修正するとともに、さらなるアップサイド要素（インオーガニック成長）として、事業領域を広げるためのBD（Business Development）戦略を盛り込んでいます。

しかしながら、国内電力インフラ市場が当初の想定以上に活況であること、一方でxEVの普及が後ろ倒しで推移しているほか、日系家電メーカーのプレゼンスが低下し当社のワイヤハーネス事業の環境が変化していることなどから、当第3四半期において、計画最終年度である2026年度の数値目標を改めて見直すことといたしました。

今後も事業環境の変化に柔軟に対応しつつ、ROICを指標とする事業ポートフォリオマネジメントを推進し、事業のキャッシュ・フロー創出力を強化することで、成長投資の確実な実行と株主還元の充実を図ってまいります。

<ご参考> 2024年5月13日公表

「中期経営計画 Change & Growth SWCC 2026 ローリングプラン2024」

<https://pdf.irpocket.com/C5805/EyBn/f7mo/DJbH.pdf>



中計ローリングプラン2024策定にあたり

2022年から始まった中期経営計画の前半が終了しました。この2年間を振り返ると、戦略製品の増産投資、キャッシュ・フロー事業のDX推進による収益力強化など基盤事業の収益力強化や、Smart Stream事業の立ち上げといった新規事業創出の面では一定の成果を出すことができ、掲げたKPIに向けて順調に進捗しております。一方で、海外事業の新展開においては、コロナ禍や地政学的リスクを要因に計画の遅れが生じ、課題が残る形となりました。こうした中、現中計を策定した2021年11月から足元の事業環境は大きく変わりました。今回のローリングプランでは、この変化を考慮して事業戦略、投資戦略を見直し、成長ドライバーへのさらなる投資やポートフォリオ転換を目指すためのBD（Business Development）戦略にも力を入れていきます。

2022年から始まった中期経営計画の前半が終了しました。この2年間を振り返ると、戦略製品の増産投資、キャッシュ・フロー事業のDX推進による収益力強化など基盤事業の収益力強化や、Smart Stream事業の立ち上げといった新規事業創出の面では一定の成果を出すことができ、掲げたKPIに向けて順調に進捗しております。一方で、海外事業の新展開においては、コロナ禍や地政学的リスクを要因に計画の遅れが生じ、課題が残る形となりました。こうした中、現中計を策定した2021年11月から足元の事業環境は大きく変わりました。今回のローリングプランでは、この変化を考慮して事業戦略、投資戦略を見直し、成長ドライバーへのさらなる投資やポートフォリオ転換を目指すためのBD（Business Development）戦略にも力を入れていきます。

に上方修正しておりますが、安定から成長につながる投資によりこれをさらにアップサイドに持ち上げる施策を講じ、2030年までのありたい姿に近づきたいと考えています。具体的には、ROIC経営にさらなる磨きをかけて事業のキャッシュ・フロー創出力を強化するほか、資本戦略の強化により資本コストの最適化と株主還元の充実を図ります。また、これまでの改革を後戻りさせない人的資本戦略も充実させるほか、今回の目標値のアップサイド要素（インオーガニック）として、事業領域を広げるためのBD（Business Development）戦略にも力を入れていきます。

SWCCグループ中期経営計画「Change & Growth SWCC 2026 ローリングプラン2024」の新たな数値目標を設定し、

代表取締役 CEO 社長執行役員  
長谷川 隆代

SWCC VISION 2030 2030年までのありたい姿

SWCCが培ったコア技術をもとに、より良い未来につながる新しい価値を創造し、さらなる企業価値向上を目指す

経済価値向上 オーガニック成長 & インオーガニック成長

SWCC VISION 2030  
インフラだけでなく、電線だけでなく、SWCCはリソリューション提案型の価値創造企業へ

社会価値向上 人の暮らしを変える社会インフラの構築  
省人化・省電力化への貢献

エネルギー・インフラ  
DXにより生産効率の向上  
戦略製品のファクトリスタンダード化

電線・コンポーネント  
線材から高付加価値製品  
へのシフト

総合電線  
メーカー

通信・産業用デバイス  
オフィス・家電向けから  
ADAS向けなど新領域へ参入

電線メーカー

3

# 中期経営計画 Change & Growth SWCC 2026 ローリングプラン2024

## 2026年度計画見直し（連結）

事業環境変化を織り込み2024年5月公表の中期経営計画ローリングプランの最終年度の目標値を**アップサイドに見直し**。

		2024年5月公表		今回見直し	
		FY2026 (目標)		FY2026 (目標)	
収益性	営業利益	170億円		240億円	+70億円
	ROE	14%以上		14%以上	
効率性	ROIC	10%以上		10%以上	
	株主還元	配当金 (配当性向/DOE) 150円以上 (35%以上/4%以上)		180円 (35%以上/4%以上)	+30円
安定性	DEレシオ	30~50%		30~50%	
	純資産	930億円		1000億円	+70億円

# 中期経営計画 Change & Growth SWCC 2026 □ーリングプラン2024

## 2026年度計画見直し（セグメント別）

(単位：億円、%)		2024年5月公表 FY2026（目標）	今回見直し FY2026（目標）	増減	見直しのポイント
エネルギー・インフラ事業	売上高	1,240	1,450	210	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業環境変化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>建設：高位安定で需要継続。</li> <li>電力：国策を背景に、高経年設備の更新需要、再エネや、データセンター向けの需要が増加。競合の撤退、工事の平準化など追い風が続く。</li> </ul> </li> <li>■ 打ち手                             <ul style="list-style-type: none"> <li>建設：キャッシュカウ最大化。</li> <li>電力：さらなる増産投資約20億円、施工力増強。</li> </ul> </li> </ul>
	営業利益	112	188	76	
	営業利益率	9.0%	13.0%	4.0%	
電装・コンポーネンツ事業	売上高	730	590	▲140	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業環境変化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>高機能製品：xEVの普及は後ろ倒し。</li> </ul> </li> <li>■ 打ち手                             <ul style="list-style-type: none"> <li>高機能製品：川下戦略へのシフトを強化・促進。</li> </ul> </li> </ul>
	営業利益	26	20	▲6	
	営業利益率	3.6%	3.4%	▲0.2%	
通信・産業用デバイス事業	売上高	360	360	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業環境変化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>通信：データセンター市場における需要が旺盛。</li> <li>ワイヤハーネス：日系家電メーカー向け需要減少。</li> </ul> </li> <li>■ 打ち手                             <ul style="list-style-type: none"> <li>通信：FLANTEC®とe-Ribbon®のさらなる拡販。</li> <li>ワイヤハーネス：車載分野への展開加速。</li> </ul> </li> </ul>
	営業利益	35	35	-	
	営業利益率	9.7%	9.7%	-	



**SWCC株式会社**

<https://www.swcc.co.jp>

本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。なお、業績等に影響を与えうる要素は、これらに限定されるものではありません。